給食（配食）サービス
すべてがボランティアの力

地域のつながりをつくる新しいカタチのボランティアへ

安否確認と地域とのふれあいを深める目的で開始した給食サービス
（昭和63年2月 旧一宮町社協の給食サービス）

東日本大震災から1年。「絆」の言葉に象徴されるように、被災地の救援に動いたボランティアは約92万人に上り、今もその活動は継続されています。あらためて、人と人をつなぐ絆の強さを感じました。

阪神淡路大震災の平成7年が「ボランティア元年」と言われました。あれから18年。「ボランティア」という言葉は国民だれもが理解できるものとなりました。

ところで、宍粟市内でのボランティア活動の現状はどうでしょうか?

今月号では、宍粟市内でのボランティア活動の変遷や現状をみながら、これからのボランティア活動のあり方について考えます。

給食サービスボランティアが草分け

宍粟市内においては、昭和50年代後半から公的なサービスではカバーできない地域の福祉ニーズを解決するため、社協が住民参加型の在宅福祉サービスの開発や実施に取り組んできました。今では制度化された訪問入浴サービスや給食サービス（現配食サービス）を行ってきました。

これらは多くのボランティアに支えられ、宍粟市でのボランティア活動の草分けとなりました。

これは社協が市民向けに具体的な活動内容を提示してボランティア参加を呼びかけたもので画期的なものでした。ちなみに、一宮では配食サービスのボランティアは、当時70名集まりました。

ここ3年間で400人減少

宍粟市で活動するボランティアは、配食サービスボランティアなどの高齢者福祉活動をはじめ、手話や点訳など障がい者を支援する活動、絵手紙や舞踊などの趣味や特技を活かした活動など多岐にわたっています。

近年では環境保全やまちづくりを目的としたボランティア活動も増えてきています。

その反面、長くボランティアをされてきたグループの解散や、ボランティア人口の減少が目立ちます。

現在、宍粟市ボランティア市民活動センターに寄せられる相談の大半が、ボランティアの高齢化に関することです。

平成23年度、同センターには131グループ、1846人が登録されていますが（表1）、平

表1　宍粟市ボランティア・市民活動センター登録数

支部	20年度		23年度（4月集計）	
	グループ	人数（個人を含む）	グループ	人数（個人を含む）
本部登録	—	—	3	33
山崎	54	891	45	698
一宮	41	538	38	478
波賀	32	464	24	395
千種	26	339	21	242
合計	153	2,232	131	1,846
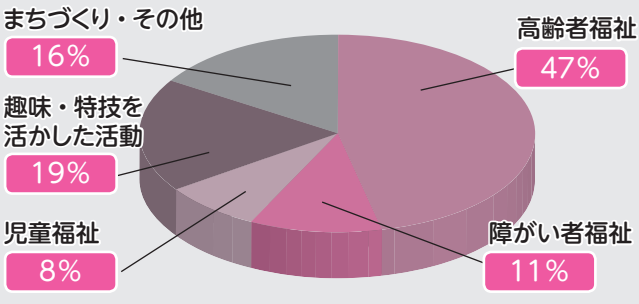
図1　宍粟市で活躍するボランティアグループ（系統別）